

学童・少年 指導者の方へ【3月24日】

岐阜市軟式野球連盟 審判部

★競技者必携の変更点ではないですが、気を付けていただきたい内容です。

1. ベンチに入れる人数【必携 P.37】

- ・監督30、コーチ29、28、選手 25 人以内、チーム代表者、マネージャー、スコアラー、トレーナー(有資格者)各 1 名、熱中症対策 2 名以内(保護者)
- 熱中症対策の 2 名(保護者)は、熱中症対策のビブスを着用し、攻守交代時に打者および走者になった選手が速やかに守備につくことができるよう水筒等の準備をする。

2. 抗議権【必携 P.43】

- ・監督か当該プレイヤーのいずれか 1 名
- 監督が代行の場合は、攻守決定時に申し出ること。

3. グラウンドに出ることができる【必携 P.43】

- ・監督に限り、グラウンドに出て指示をすることができる。
- コーチ(28 番、29 番)はベンチから出ることはできない。
- 準備投球の捕手としてコーチ(28 番、29 番)が受けることはできない。控え選手が捕手の代わりをできないのであれば、内野手等の選手で行うこと。

4. ベンチ内での電子機器の使用【必携 P.39】

- ・ベンチ内での電子機器の使用は禁止。電子スコア記録用は 1 台認める。
- ・メガホンは指示用に 1 個のみ
- ベンチ内の携帯電話、デジタルカメラの使用禁止。(持ち込まない)

5. 次の試合のバッテリーのブルペン使用【必携 P.38】

- ・次の試合の先発バッテリーは、攻守決定後、競技場内のブルペンを使用することができる。
- 攻守決定後でないと、先発バッテリーが分からないため。
- 相手ベンチへ断りを入れて使用すること。試合の妨げにならないよう注意。
- 先発バッテリーなので控え投手、代理捕手がブルペンに入ることは認められない。

6. 投手のベンチ正面キャッチボール禁止【必携 P.40】

- ・次のイニングに引き続き投げる投手は、ベンチ外野側角からポール方向のファウルテリトリーでの軽いキャッチボールは認める。
- ・ブルペンは 2 組 4 名まで

7. 守備側タイム回数制限【必携 P.54】

- ・監督が、1試合に投手のもとに行ける回数は 3 回以内とする。
- ・なお、1イニングに同一投手のもとに2度行けば、その投手は自動的に試合から退かなければならないは適用しない(5. 10(2)は適用しない)
- ・攻撃側タイム中に、守備側は指示をすることができるが、攻撃側タイムより長引けば、守備側の 1 回とカウントされる。
- ⇒守備側タイム中に、攻撃側に指示を与えることができるが、守備側タイムより長引けば、攻撃側タイムの 1 回とカウントされる。

8. 捕手の用具・装具【必携 P.58】

- ・試合に出場する捕手は、安全のためプロテクター、レガース、マスク(スローとガード付き)、捕手用ヘルメット、ファウルカップを着用すること。
- ・控えの捕手が準備投球を捕球する際は、捕手に求められる用具すべてを着用していない限り、立って捕球すること(出場中の内野手可)
- ・捕手用ヘルメットとマスクの一体製品は使用を禁止する。
- 用具・装具点検を行う際は、用具・装具をベンチ前に並べておくスムーズに点検しやすいので協力をお願いします。

9. 投手の動揺を誘う声禁止【必携 P.11】

- ・投手が投手板に触れて投球位置についたら、投手の動揺を誘う声を発しない。
- 動揺を誘う声は、本部および審判員の判断になる。
- ベンチの大人が投手を煽るような「リー、リー」「ゴー」は好ましくない。

10. 球場内の打撃練習【必携 P.38】

- ・球場内ではトスバッティングのみ認める
- フリーバッティング、ハーフバッティング、ベンチ前の一斉スイングの禁止(安全のため)
- 球場のルールに従って安全にアップすること。キャッチボール&スイングは禁止している球場が多いので注意。